
私はだまされない　ひとみ　マギカ

窪まり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私はだまされない ひとみ マギカ

【Nコード】

N8298Y

【作者名】

窪まり

【あらすじ】

なぜ、鹿目まどかと美樹さやかとの親友・志築仁美は、魔法少女にならなかったのか？魔法少女まどか マギカ前史！

壊れた日常の「ひだまり荘」(前書き)

ある日、突然、ゆのたちが住む「ひだまり荘」に不思議なことが起きた。

謎の宇宙生命体であるQBとの、遭遇に混乱する、「ひだまり荘」の住人と吉野屋先生の反応。

「魔法少女まどか マギカ」と「ひだまりスケッチ」のコラボレーション

壊れた日常の「ひだまり荘」

なぞの白い宇宙生命体・キュウベえ（以下、QB）はインキュベーターの有機端末として地球にいる少女たちを、魔法少女にして、その強い感情エネルギーのノルマを達成しなければならない。

QB「今月のノルマは魔法少女を、日本という国で少なくとも10人にしなければならぬ。日本中の女子中高校の女子をみても、魔法少女の素質がある子は、とても少ない。本来、地球の人口が増えているから、その分、景気が良くなっても良いはずなんだけど。」
とつぶやいた。

また、隣町には、ひだまり荘があり、QBは因果律が高そうな少女を見つけた。

QB「今月は最低でも、この国の少女10人を魔法少女にしなければならぬ。そうしないと、この宇宙の寿命が短くなる一方だし。」

「でも、地球の人類の人口が70億を超えているが、インドや中国を担当している有機端末は、えり好みができるが、日本担当の僕は、少子化で、ノルマが厳しくなる一方だ。ええい。えりこのみしている場合じゃない！」と、「今日は少女たちが6人いる、ひだまり荘から『魔法少女にならないか』」と声をかけて行く。

日常が壊れた「ひだまり荘」

ひだまり荘に来たQBは、まず初めに、ゆのに声をかけてきた。

『僕と契約して魔法少女なつてよ』と、親しみをこめて、ゆのにテレパシーで話しかけたが、ゆのはそれが頭の中で聞こえたので、気味悪がった。

QB『失敗した。いきなりテレパシーで話しかけても、彼ら地球人類にはテレパシーで話し合う能力がないのだ。だからいきなりテレパシーで話しかけても無意味なんだ。』

ゆの「なんなの？なに？今は……。新手の新興宗教の勧誘なの！」と思った。

ゆのは、ひだまり荘に住む、同級生・先輩である宮子・ヒロ・沙英に相談した。

ヒロ「もしかしたら、例の人間ラジオになったのではないの？歯を見せてごらん。」

「銀歯がないし、人間ラジオの疑惑はないわ。」

ゆの「人間ラジオとは何なの？」

ヒロ「人間ラジオとは、歯の詰め物がラジオの心臓部であるダイオードの働きをして、人体がアンテナになり、そして顎の骨がラジオのイヤホンの役割になる仕組みなんだけど。」

ゆの「なんだか怖いわ！でも耳に声が聞こえるのではなく、頭の中で声が聞こえるような……。いや、心の中に響くような感じで、どう説明したらよいのかな。」

沙英「吉野屋先生に相談してみよう。」

ゆの「それがいいわ。」

QBは、それを見て、自分が直接で彼女たちに会って、話し合わなければいけないと思った。それに、ひだまり荘では、因果律が強そうな少女が6人いるから魔法少女として勧誘するには、美味しい場所である。

QB「彼女たち6人を魔法少女として勧誘できたら、彼女たち6人でチームを組み、近いうち隣町の見滝原市にワルプルギスの夜に立ち向かわせる事が出来る。一気に6人勧誘できれば、あと今月のノルマ4人分不足しても、おつりが来るくらいエネルギーが得られるはずだ。」と考え出した。

電話で吉野屋先生を、ひだまり荘に呼びだした。

吉野屋先生が、ひだまり荘に来た時に、QBが彼女たちに姿を現した。

「おもしろいかつこの生き物がいるわ。」

「どれどれ」

ひだまり荘の庭に、QBが見えた。

その姿は……。ひだまり荘の、ゆのの部屋に入る。

ゆの「ネコなの？ウサギなの？不思議な生き物。」

ヒロ「どれどれ。」と触ろうとしたら、

ゆの「噛みつかれるかもしれないから気おつけて。」

紗英は冷蔵庫から食べ物を取りだしQBを餌付けしようとした。「こっちにおいで。」

ヒロ「もしかして、これがUMA（未確認動物）ではないの。でも、この人間がたくさん住む街にUMAがいるなんて変だし。」

紗英はQBに餌付けをしようとしたが、QBは食べようとしなかった。

QB『小動物型有機端末だから、地球の野生動物と勘違いしている。』

紗英は、QBを呼んだ「チツチツチ、こっちにおいで。」

QBは紗英のところに来た。

紗英はQBを捕まえて、これが謎の白い未確認動物なんだ。

吉野屋先生が、ゆのの部屋に入った。

ゆの「意外とおとなしい子なんだ。」

ヒロ「先生、紗英が捕まえている、謎の白い動物がいるのですが。」

吉野屋先生は少女ではないからQBの姿が見えないのである。

吉野屋「どこにいるの謎の白い動物は。」

紗英「だから私の膝の上にいるの。」

吉野屋「そんな動物見えないわ。」

ゆの「先生、どこを見ているのですか？ここにいますよ。」

ヒロ「紗英の膝の上に。」

紗英「今、私の膝の上にいるのが謎の白い動物です。」

吉野屋先生は、ひだまり荘のみんなに、からかわれていると思って、機嫌を悪くした。

吉野屋「謎の白い動物なんて、どこにもいません。先生を、からかうのはやめてください！」

ヒロ「だって、私たち4人には、ちゃんと見えているのに、先生だけが見えない何ておかしいですよ。」

吉野屋「どこに、謎の白い動物がいるのですか？」

ヒロ「だから、紗英の膝の上に。」

QBは、ゆのに再びテレパシーで話しかけた。

『僕と契約して魔法少女になってよ。』

ゆの「また、頭の中に声が聞こえる。」

ヒロ「今日は、ゆのにしても、吉野屋先生にしても、変だ。」

「先生には謎の白い動物が見えないみたいだし、ゆのは、『頭の中で声が聞こえる』というし。」

QBは、ゆの以外の3人の少女たちにテレパシーで話しかけた。
『僕と契約して魔法少女となつてよ。』

4人とも顔を合わせた。

紗英「この謎の白い動物どころではないわ。私たちも、頭の中で声が聞こえたわ。」

ゆの「私たち、最近、疲れてない。ストレスがたまっていない。」

吉野屋「今日のあなたたち、ちょっと、おかしいいわ。」

ヒロ「先生、最近、私たち何か変です。」

紗英「もしかして集団幻覚……。」

QBは、ひだまり荘から出て行った。「やれやれ、別の戦略を考えなければいけない。」

「隣町に近代化改装した見滝原市に行こう。ここなら今月のノルマが達成できる大きな街だから」と、市のお金もちの娘で因果律が高い少女を魔法少女にしようとした。

その時、お金もちのお嬢さんである、志築仁美をみいだした。「因果律が高そうな子だ。この子なら、立派な魔法少女になれる。」とQBは、そう思った。

壊れた日常の「ひだまり荘」(後書き)

騙されなかったというよりは、不思議な経験をして困惑する「ひだまり荘」の住人たち。

果たしてQBの魔法少女チームは作れるのか？お金持ちで因果律が高い少女、志築仁美を魔法少女することができるだろうか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8298y/>

私はだまされない ひとみ マギカ

2011年11月24日19時51分発行